



ちょっと、チクっとしますよ。

消化器病に特化したベッドを配置した病棟の開設をめざします

当院では、消化器病(胃・腸・肝臓など)の患者さまの来院・入院が多いことから、これまでは、内科の病棟に入院した患者さまが手術を受けるために別フロアの外科病棟へ移動しなくてはならないケースが多くありました。

このため、内科と外科を同じフロアに配置し、同じ病棟で入院生活を送っていただくことを検討しています。

これにより、少しでも患者さまの不安解消につながるのではないかと期待しております。

また、当院では、以前の広報でもいでも紹介した南医師を含め、消化管の内視鏡治療に熟練した内科医師を配置しており、外科でも

在宅で療養している患者さまを支援する診療所開設をめざします

当院では、旧病院の時代から通院困難な患者さまへの在宅医療を続けています。

これは同規模の他の公立病院では、あまり例のない取り組みです。平成18年の診療報酬改定において、在宅医療を推し進める制度への移行が図られたことから、これまで院内で行ってきた在宅医療を在宅療養支援診療所に移行し、在

越湖副院長他スタッフは、腹腔鏡下手術を積極的に取り入れ、患者さまの体の負担を少なくするよう努力しております。

さらに、6月から病理医が常勤となったため、手術中に腫瘍の良性・悪性の判断ができるようになり、より安全性と正確性の高い医療を提供できる体制を整えることができました。



内視鏡治療中の南医師



腹腔鏡下手術中の越湖副院長(左から2人目)



今日の調子は、どうですか？

現在、国では、医療保険制度を堅持するための医療制度改革が急速に進められており、地域医療の現場にもさまざまな影響を及ぼしています。

留萌市立病院もその影響を強く受けており、今までのような『待ちの姿勢』では、医療制度改革に取り残され、留萌市立病院の累積赤字がふくらむばかりか、病院の

存続さえも危ぶまれる状況となっています。

今年度から新たな管理者となった笹川院長は、「あきらめない」を信条として、「経営の安定化とスタッフの育成」「医師、看護師などのスタッフの確保」を柱に、住民や職員が満足できる形で市立病院を発展、継続させることをめざしています。

このたび策定した『平成19年度留萌市立病院運営方針』では、『地域センター病院としての使命達成

新しいサービスをすすめます

地域住民の医療動向を考えた病棟の再編成を行います

療養病棟の開設をめざします

現在、療養病院や介護施設に入所を希望しても順番待ちの状況が続いております。このため、『当院を退院しなければならぬが、

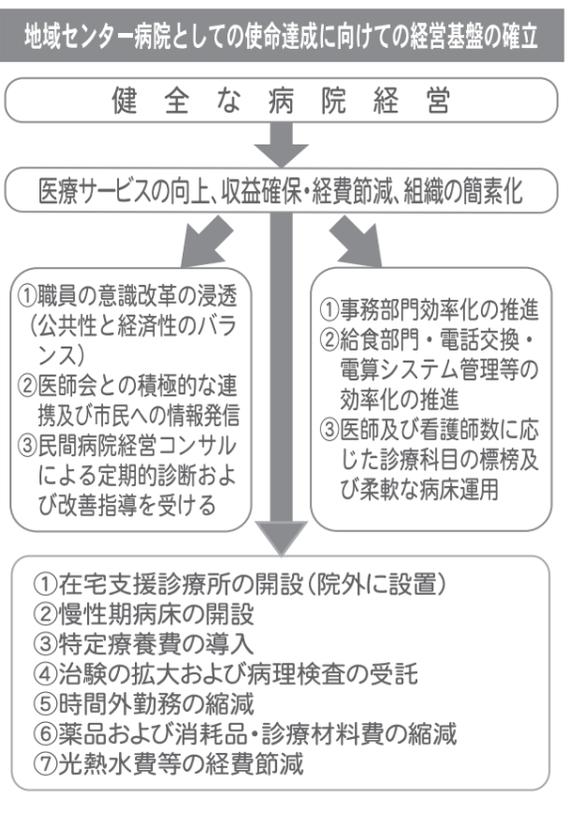
自宅にも帰ることができない、また、施設にも入所できない」という患者さまのために療養病棟の開設をめざします。

健全な病院経営のために

昭和42年10月1日に東西の病院を統合し、9診療科でスタートした市立病院は、専門高度化する医療環境の中、これまでにいくつもの経営危機を乗り越えながら、今では診療科を18に増やし、地域医療の充実に努めてきました。しかし、国の度重なる制度改正などにより、市立病院は、今最大の難局を迎えています。



背筋を伸ばして、がんばりましょう！



看護師さん大募集！



新規事業を展開するにあたり、看護師さんを募集します。詳細については、下記までお問合せください。

また、今回の記事に関するお問合せについても、下記までお願いします。

留萌市立病院総務課総務係

☎49・1011

soumu@rumoi-hp.jp

患者の笑顔が医療スタッフの喜び

新聞やテレビなどでも伝えられているように、地域医療は大変厳しい状況にあります。私たちがスタッフも地域住民の一人として、

地域医療を支えなければならぬという使命感をもって従事しております。患者さまが笑顔で退院を迎えたり、感謝のことばをいただいたときに、医療にたずさわる者として、何よりの幸せを感じています。

今後も、ご意見をいただきながら、地域の皆様方に愛される『留萌市立病院』をめざします。